

佳作

その先にあるものを見つめて

山形県 川西町立川西中学校三年 横山 謙恩

川西中学校では、生徒会ボランティア委員会の活動である「ペットボトルキャップ回収」、「アルミ缶回収」や「古紙回収」を行なっています。その他に、有志を募り、小松駅にイルミネーションを設置したり、各地区の廃品回収や地区運動会でも生徒が運営役員に多く携わっています。

小学校の頃は、「ボランティア」に対して特に関心はありませんでした。中学校に入学して、生徒会の委員会を決める時、「空き缶や古新聞を集めるなら自分にもできそうだな」という理由でボランティア委員になりました。一年生の時は、あまり深く考えず、ただ呼びかけをして回収活動に参加していました。クラスで呼びかけてもあまり持ってきてもらえない時もあり、やる気を失う時もありました。

自分の中で何かが変わったのは、委員長となり、

ボランティア活動の先にある「人と人とのつながり」に気づいた時です。「ペットボトルキャップ回収」は、ペットボトルキャップを、ポリオワクチンに換え、世界のポリオ流行地区に寄付しています。昨年度は百八十キロ集まり、約二十人分のポリオワクチンに換えることができました。「アルミ缶回収」と「古紙回収」は、回収したアルミ缶や古紙をお金に換え、東日本震災で被災した大槌町に義援金として寄付をしています。大槌町は、川西町出身の作家、井上ひさしの「ひよっこりひよたん島」の舞台となった町です。このような縁から、東日本震災の翌年から続けている大切な活動です。しかし、大切な活動だと思いつつも、義援金を集めて届けて終わりでよいのかという疑問も感じていました。

この夏、大槌町立吉里吉里学園中等部芳賀生徒会長からお手紙を頂きました。その手紙には、川西中学校からの義援金への感謝の言葉とその使い道がつけられていました。この手紙によって、自分達の活動が吉里吉里学園の皆さんの活動につながっていることを実感し、続けてきて良かったと心の底から思いました。たった一枚のお礼状ですが、行間からたくさん思いがあふれ、心が温かいもので一杯にな

り、これからの励みになっています。

私達は、ボランティアのその先にある知らない誰かの「助かる命」や「笑顔」、そして「感謝の思い」を理解した時、自分に今できることは何かを改めて考え、行動できるのではないのでしょうか。

僕はこれからも、「誰かが誰かのために」、「困っている時はお互い様」という気持ちを忘れず、ボランティア委員長として、また社会の一員としてこれからも活動を続けていきます。そして、いつか大槌町を訪れてみたいと思います。その先にあるものを見届けるために…。